

北区医師会感染症対策委員会

創設について

会長 田淵 義勝

外国人の流入が多い北区では麻疹等海外由来の感染症流行地域となる可能性が高いです。

緊急を要する情報を速やかに収集し会員に周知し、各病院および行政と連携して対策を講じる必要があります。また感染症の新たな知見について情報を発信し、時を遅えず研修会を開催し、会員、市民へ啓発していかなければなりません。

一方ここ数年薬剤耐性菌の検出が数多く報告されています。その多くは地域の医療機関や医療関連施設等で循環していると考えられます。感染管理ネットワークを構築し地域内の耐性菌発生予防のため抗菌薬の適正使用推進に努めなければなりません。

次に小児に限らず成人に対するワクチン接種に関する情報の発信と推進を図ります。

その他あらゆる感染症に関する対策をいち早く会員に情報を

提供し市民へ適切な感染症予防または治療ができるようにしなければなりません。

以上の趣旨および目的で北区医師会は平成30年6月30日(土)の第59回理事会にて、感染症対策委員会の設置を承認しました。

発足メンバーは理事会から 田淵 義勝、東 千尋、大原裕彦、本出 肇、太田 祥彦、澤田 宏子、一般会員から古林 敬一、都竹 正信、頼 裕佳子、病院の立場から 安井良則、丸毛 聡、林 三千雄の諸先生の12名でスタートしました。ご興味のもたれた会員の皆様、さらに会員以外に、病院のICT (Infection control team) の看護師、薬剤師等の皆様、また在宅医療を支える北区内の訪問看護ステーションの感染症担当看護師に拡大できたらと考えております。

9月8日(土) 住友病院感染制御部 林三千雄先生の第146回学術講演会「耐性菌が蔓延する時代の抗菌薬の使い方」終了後 第1回北区医師会感染症対策委員会が開催され以下の事項が討議され、今後の予定となりました。

① 学術講演会と感染症に関して協賛し適切な演題を選択したい

② 市民啓発のためみんなで学ぶ健康法のテーマに抗菌薬の適正使用を選択したい

③ 北区の7病院と感染症に関するネットワークを構築したい

④ 抗生物質の適正使用に関する啓発ポスターを作製したい

⑤ 北区医師会のホームページでの感染症に関する情報をタイムリーにアップデートをしていきたい

さらに11月12日(月)15時より北区病院感染対策ネットワーク会議が北区医師会館で開催され、区内の6病院のICTにかかわる医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師等16名が参加しました。今冬のインフルエンザに関する状況報告、北区医師会主催の講演会、研修会等に本ネットワークが中心となり区内の医師のみならず、クリニック、介護施設、訪問看護ステーション等に勤務しているコメディカルスタッフを対象とした研究会を次年度以降実施していく提案が協議されました。また抗菌薬適正使用を啓発するポスター、ネットワーク内での菌検出状況、感染症アウトブレイク等の情報共有についても協議されました。

これに引き続き第2回感染症対策委員会が11月22日(木)19時より同じく当会中島谷ホールで開催されました。①抗菌薬適正使用啓発ポスターについて ②来年度の「みんなで学ぶ健康法」の講演会を抗菌薬適正使用と風疹・麻疹の状況についてをテーマに2019年6月8日(土)14時から16時に北市民セン

ター2階ホールで開催することを決定されました。従来は木曜日開催でしたが北区に流入している若年者層にも参加しやすいように土曜日に設定しました。演者は国立国際医療研究センターAMR臨床リファレンスセンターの具芳明先生および済生会中津病院 安井良則先生の予定です。

最近の感染症として風疹、麻疹、インフルエンザについての情報の報告がありました。また都竹委員から带状疱疹、黄熱病のワクチンについての報告もありました。

郡市区医師会単位での感染症対策委員会を病院、在宅医療まで拡大しながら市民啓発に発展させていく試みは端緒に終わったばかりです。最近の爆発的な外国人流入現象に輪をかけて今年度はG20、ラグビーワールドカップ、来年は東京オリンピック、2025年は大阪万博と流入は加速度的に膨れ上がります。また入管法の改正による外国人就業者は大阪にさらに集中すると考えられます。感染症対策委員会はあらゆる可能性を想定して対応していかないと考える次第です。会員の皆様のご協力をお願い致します。